

景観チェックリスト

◎…具体的配慮の記入必須事項

1. 公共事業に共通の設備等に関し留意すべき事項		具体的配慮 記入
共通要素 (個別事項)		
法面	<p><基本方針> できる限り緩やかな勾配とし、在来種による緑化を施す等により 原地形や既存植生になじませる。</p> <p><具体的方向></p> <p>①原地形との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 法面は、できる限り統一した植生工による表面処理と原地形への取付けの工夫により、違和感のないものとする。 □ 法尻、法肩部に季節感を考慮した低木や花木などの植栽を行う。 ◎ 法面は緑化可能な勾配とし、必要最小限の規模となるように計画する。 <p>②緑化の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 表土の復元などにより、法面に既存植生を回復させる。 ■ 植生タイプを統一することにより、周辺植生と調和させる。 □ 視覚的な連続性を高めるため、周辺とのコントラストを考慮した植栽構成とする。 ■ 既存樹木をできる限り多く残すことにより既存植生と調和させる。 	<p>法面は厚地形の大規模な改変を行わない範囲で可能な限り緑化可能な勾配とする。また、現在の地形と植生をなるべく現存させる工法（枠内植生基材吹付工）とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切土法面の安定は植生マット及び植生基材吹付工 吹付法枠工（枠内植生基材吹付工・枠内モルタル吹付工）により行い、周辺植生と調和させる。 ・植生マット工は土砂災害を防ぐため早急な緑化が必要であり、種を入れられない待受型は採用しない。 ・枠内植生基材吹付工に用いる資材は現場条件に応じた種子配合及び播種量を検討し、外来種の使用を避ける。なお土砂災害を防ぐため早急な緑化が必要であり、資材を確保できない場合はこの限りではない。
擁壁	<p><基本方針> 自然素材（木、石等）を利用し、緑化などとの併用により、周辺景観になじませる。</p> <p><具体的方向></p> <p>①周辺景観との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 緑化ブロックを使用し、植栽で周辺と調和させる。 □ 自然石、地場産素材の活用、植栽の併用を複合的に取り入れる。 ◎ 擁壁は周辺の景観と調和した形態及び素材とし、必要最小限の規模となるよう計画する。 <p>②緑化の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> □ つる性植物による緑化により擁壁面を被覆し、構造物による違和感を軽減する。 □ 擁壁前面に植栽スペースを設置し、壁面を遮へいすることで、圧迫感を低減する。 □ 擁壁の天端に植栽することで構造物が与えやすい周辺への違和感を和らげる。 	

	<input type="checkbox"/> 既存樹木の保全、再生に積極的に取り組む。	
ダム ・ 堰堤	<p><基本方針></p> <p>ダム・堰堤は、治水、利水を始め、治山、砂防等を目的に建設されるものであるが、その本体・貯水池及び関連施設は大規模であり、地域環境に大きな影響を与える施設である。</p> <p>ダム・堰堤の建設に当たっては、地域住民の生活や周辺景観への影響を考慮し、地域の自然や歴史、文化との調和、融合が図れるよう景観上の配慮を行う。</p>	
	<p><具体的方向></p> <p>①ダム・堰堤</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺自然環境を阻害しない位置や形式を検討し、周辺景観と調和させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連施設や道路には、できる限り現地発生材を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 治山・砂防堰堤については、下流側のコンクリート面が目につきやすいことから、次の対策を講じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 自然環境に配慮し、間伐材等の素材を活用する。</p> <p><input type="checkbox"/> 可能なら、つる性植物等により被覆する。</p> <p><input type="checkbox"/> 堰堤周辺には、できる限り植樹を行う。</p> <hr/> <p>②その他</p> <p><input type="checkbox"/> ダムや堰堤周辺の余裕地などには、周辺景観と調和のとれた植栽や公園・広場を設け、緑と水に親しめる空間を創出する。</p>	
急傾斜地崩壊対策施設	<p><基本方針></p> <p>急傾斜地崩壊対策施設や山腹工は、土砂崩れから人家を保全し、地域住民の生命・財産を保護することを目的としていることから、設置箇所や構造についての配慮は困難である。</p> <p>しかし、地域環境と密接に関係する施設であるため、施設の設置にあたっては、地域環境への影響を考慮し、地域の自然と融合が図れるよう景観上の配慮を行う。</p>	
	<p><具体的方向></p> <p>①擁壁工</p> <p><input type="checkbox"/> 擁壁工については、人家背後に設置されることから、不特定多数の人目を引くことは少ないが、擁壁工のコンクリート面が目につきやすい場合には、コンクリート壁面の表面処理や自然環境に配慮した間伐材等の活用、つる性植物等による被覆、植生ブロックの設置、施設周辺の植栽等の対策を行う。</p> <p>②法面工</p> <p>■ 法面は、原則として緑化することとし、コンクリート吹き付けは避ける。</p> <p>■ 緑化は、原則として在来種で行う。</p>	崩壊土砂に対して、植生による対策工事では法面を安定させることは不可のため、最低限の範囲の モルタル吹付吹付法土工 を行う。 ・植生マット工は土砂災害を防ぐため早急な緑化が必要であり、種を入れない待受型は採用しない。 ・ 枠内 植生基材吹付工に用いる資材は現場条件に応じた種子配合及び播種量を検討し、外来種の使用を避ける。なお土砂災害を防ぐため早急な緑化が必要であり、資材を確保できない場合はこの限りではない。
港 ・ 空港	<p><基本方針></p> <p>港では、陸域・海域の優れた自然環境を背景に、港の町並みや船溜りなどが情緒ある風情を醸し出している。また空港は、地域の玄関口を印象づける空間となっている。</p> <p>港・空港の整備に当たっては、地域の自然環境、歴史や文化の特性を考慮し、人々が集う親近感のある快適な空間を創出する。</p>	